

調査結果の概要と分析、改善策について

丹波市立山南中学校

【分析にあたって】

4月18日(木)に実施された本年度の全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。本校は、国語・数学ともに全国と同程度でしたが、課題が見られる設問が複数ありました。「授業のユニバーサルデザイン(UD)化を核とした誰もがわかりやすい授業づくり」により、基本的なことから定着が見られるものの、教科の特有の表現を用いて説明したり、自分の考えを述べたりすることに課題が見られました。

しかし、本調査で測ることができるのは学力の一部でしかありません。また、比較的規模の小さい本校では、生徒数人の正誤によって結果が大きく変わってきます。したがって、正答率等の数値のみにとらわれるのではなく、生徒の学力の傾向を適切にとらえ、苦手な部分を補い、得意な部分をさらに伸ばす教育活動を引き続きすすめていくため、この調査結果を活用したいと考えています。

【調査概要】

- 実施日 令和6年4月18日(木)
- 実施教科 国語、数学
- 対象学年 第3学年



【質問紙調査から】

<挑戦心・自己肯定感・自己有用感・居場所づくり>

| 質問事項 | 肯定的回答 | 全国との差 |
|-----------------------------|-------|-------|
| 将来の夢や目標を持っていますか | 58.8% | -7.5p |
| いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか | 94.1% | -1.6p |
| 人が困っているとき進んで助けていますか | 90.6% | +0.5p |
| 人の役に立つ人間になりたいと思いますか | 95.3% | +0.1p |

○「人の役に立ちたい」という思いを行動につなげる力を育むことで、自己有用感を高めます。その力をもとにして挑戦心を育む取組を充実させたいと考えます。また同時に、いじめを生まない学校風土づくりに取り組みます。

<学習習慣>

| 質問事項 | 1~2時間 2時間以上 | 全国との差 |
|------------------|----------------|------------------|
| 平日にどのくらい勉強していますか | 53.0% 17.7% | -11.3p -14.0p |
| 休日にどのくらい勉強していますか | 51.8% 21.2% | -11.2p -15.0p |

○平日、休日ともに学習時間は決して多くなく、1時間以上学習する生徒は全国平均を大きく下回っています。昨年度と比べても回答率が下がっていることから、学習の内容の定着には、ある程度の学習時間の確保が必要と考えます。

<学習に対する姿勢・学習内容の活用>

| 質問事項 | 肯定的回答 | 全国との差 |
|--------------------------------------------------|-------|-------|
| 学習した内容について分かった点やよく分からなかった点を見直し、次の学習につなげようとしていますか | 75.2% | -2.7p |
| 授業で学んだことをほかの学習や実生活で生かしていますか | 72.9% | -6.1p |

○2つの設問ともに全国平均をやや下回っていますが、本校の回答率は昨年度比+10pとなっています。学習の意義や目標を明確にし、学んだことを活用する姿勢を育みたいと考えます。

<学習課題に取り組む姿勢>

| 質問事項 | 肯定的回答 | 全国との差 |
|------------------------------------------------------------|--------------------|----------------|
| 今回の調査問題には解答を文章で書く問題(国)、言葉や式で説明する問題(数)がありました。最後まで解答しようとしたか。 | 国 69.4% 数 43.5% | -2.6p -6.5p |

○国、数ともに昨年度比-15pとなっています。国・数に限らず、すべての教科で育みたい学びの基盤となる力であると考えます。

【各教科の結果から(特に顕著な問題)】

※本文中の「p」は本校正答率と全国平均の差の単位
本校 80.5% 全国 72.5% のとき 差は「+8.0p」と表記しています

<国語> ※問題文、解答等は国立教育政策研究所 HP を参照

(URL: <https://www.nier.go.jp/24chousa/24chousa.htm>)

(問題3-1) 全国との差: +2.9p
問題の概要: 物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものとして適切なものを選択する
正答: 選択肢3を選択している

読解をする際に各文の関係性を考えさせたり、授業の振り返りを書く際にその根拠を明確にして読み手が理解しやすい文章を書くことを意識させたりする取組の成果と考えます。

(問題3-4) 全国との差: -10.7p
問題の概要: 表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する
正答: 2つの条件を満たし解答している

表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる問題です。(問題3-1)のように選択式の設問では、一定の成果が見られますが、記述式の設問には大きな課題があります。無解答率も 16.9p であり、すべての設問の中で最も高くなっています。

(問題4-1) 全国との差: -16.3p
問題の概要: 短歌に用いられている表現の技法を説明したものとして適切なものを選択する
正答: 選択肢4を選択している

表現の技法について理解しているかどうかをみる問題です。知識・技能を問う他の設問においても定着に課題が見られます。学習した事柄の確実な定着を図るためには、日々の授業において、様々なことから始めて問い返しを行うような学習活動を充実していくことが必要と考えます。

<数学> ※問題文、解答等は国立教育政策研究所 HP を参照 (URL は国語欄に記載)

(問題6(1)) 全国との差: +3.8p
問題: 右図の口に入る数を求める
正答: -2

考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかを見る問題です。正答率も高く技能の定着がみられます。日頃から授業の中で基本事項の確認をしたり、小テストを実施したりして、学んだことを定着させる機会を充実させることが学習内容の定着につながっていると考えます。

(問題8(2)) 全国との差: -8.7p
問題の概要: 18Lの灯油を使い切るまでの「強」「弱」の使用時間の違いを求める方法を式やグラフを用いて説明する
正答: 2つの条件を満たし解答している

すべての設問の中で最も正答率が低くなっています。関数領域では、式を求めたりグラフをかいたりする等の知識・技能については比較的定着が見られるものの、学んだ事柄を使って数学的に説明することについては課題が見られます。

(問題9(1)) 全国との差: -11.3p
問題の概要: 点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、AQ=PBであることを三角形の合同を基にして証明する
正答: 根拠を記述し証明している(省略)

すべての設問の中で最も無解答率(41.0%)が高くなっています。図形の性質を活用し、筋道を立てて証明することについては例年課題となっており、その解決を図るためには、日々の授業の中で数学的な表現を用いて思考させたり説明させたりする活動を充実することが求められます。

【今後の取組(指導改善のポイント等)】

<各教科及び教育活動全般を通して>

- 調査結果から見てきた国語・数学の課題や成果をすべての教員で共有し、国語・数学をはじめすべての教科で授業改善に取り組みます。また、教科の枠を超えたすべての教員が参加する授業研修会を継続して行い、各教員が取り組む課題を明確にします。
- 特に「説明する」活動を重視し、すべての教科で「自分の考えを整理する」「根拠を明確にする」「目的や状況に応じて適切な表現を用いる」等を踏まえた授業を展開しながら表現力の育成を図ります。
- 市研究指定を生かし、生徒自身が学ぶ目的を明確にするとともに、自ら学習課題を設定し、「いつ」「何を」「どのくらい」学習するのかを決め、主体的・計画的に学習に取り組む「学びのマネジメント力」の育成をすすめます。これらの取組を通して、学習することを習慣化し、学習内容を日常生活に活用していく姿勢を育みます。
- 学校行事や日常の生徒会活動の中で、生徒が主体的に活動する機会を充実します。自己肯定感、自己有用感を育むとともに、安心・安全な学校づくりをすすめます。